



幸手市議会議員
本田ようこ

〒340-0164
幸手市香日向3-10-16
TEL 0480-43-8988
FAX 0480-77-4347
E-mail
mirai@honda-yoko.com



牽せの手

よひの一般質問報告

— 平成26年第1回幸手市議会 —

① 自主防災組織の現状とこれからの防災対策は？

組織率 (2月1日現在)

41団体、1万1856世帯

54.1%

組織率100%を目指し区

長会へ協力を要請している。

防災訓練実施↓7団体

資機材整備↓15団体

これからの防災対策として、

○自主防災組織等の横の連

携組織を設置

○防災の研修や防災士等の

養成。

○情報収集体制等の確立

*地域防災力を高める

市職員や自主防災組織の中

から、防災士を養成(市職

員は26年度予算措置を、自

主防災組織に対しては、一

部負担の助成を26年度に行

いたい。

*連合組織として、市内21

名の防災士を把握し、今後

のネットワーク作りを考え

ている。

② 働くお母さんに対する「子育て支援策」は？

就学前の子どものいる働くお母さんに対する子育て支援策

○保育所運営事業

公立3カ所、私立1カ所の認可保育所があり、入

所者数371名

○一時保育事業

3カ所の公立保育所にて

○ファミリーサポートセン

ター事業

育児援助を行いたい方とさ

れたい方の双方が会員とな

り、依頼249名、協力

59名、両方33名が登録

(すべて26年2月現在の数)

就学児童がいる働くお母さんに対する子育て支援策

○保育後児童健全育成事業

(学童保育運営)

6カ所、小学1〜6年まで

253名を受け入れている。

長倉小のたんぽぽ学童保育

室は、在籍児童の増化に対

応するため、西中プレハブ

教室を改修し、4月から学

童保育室を開設予定です。



③ 人間ドック・脳ドックの検診費用一部助成の利用は？

国民健康保険加入者で助成を受けた方	
30代—2名	60代—59名
40代—2名	70~74歳19名
50代—5名	(計87名)
後期高齢者医療加入者で助成を受けた方	
75歳以上—16名 (計16名)	

右写真は、大型店舗の入口ドアに貼られていたもので、外に出たら、そこでの避難所なんて分かりません。このような心遣いが幸手の中でも広がって行けばと望し、「26年度中に対応出来ればとの考え」との答弁でした。

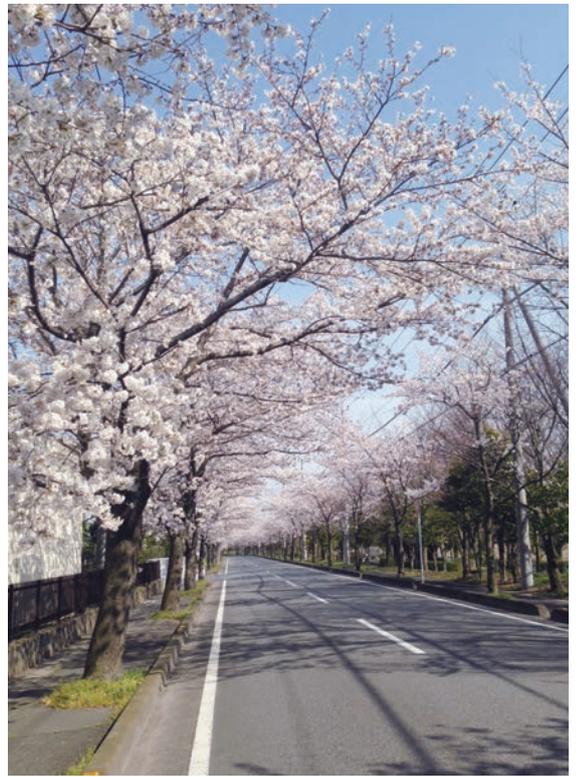
問題点と対策

保育所施設の老朽化の対応が求められている。また、保育所の入所基準等が変わるため、今後、保育所へのニーズが高まると予想される。私立・公立の保育所の連携を十分に取り、運営方針を検討していく。学童保育室については、児童館内に設置しているたつき学童保育室は、児童数の動向等から、さくら小学校内に設置の検討を始める。

私は思う

特定検診の受診率に力となる。利用状況は「円滑に実施されている」というが、検査結果提出に問題などがある市民は、この助成を使わない訳です。使えないのです。受診結果は必ずしも必要なのか、誰でもこの助成が使えるのか、早期発見早期治療で、その先の医療費の軽減につながるのでは。

*赤字は本田ようこが保わり、皆様のご協力で進展した成果です。



平成26年度幸手市一般会計予算可決 こんなことが始まります

- 住宅用太陽光発電システムの設置費用に対する補助
- 生ごみ処理機の購入費用の補助
- 再利用可能な資源物を回収するリサイクル活動団体に対する補助
- 老朽化したし尿処理施設の更新
- ウエルス幸手のキッズテラスやふれあいカフェコーナーを無料開放し、親子プレイルームの専任指導員を増員
- 河川、水路、排水ポンプ場の整備
- 圏央道側道の整備
- 幸手インターチェンジの開通イベント開催
- 幸手駅舎橋上化工事の建築確認申請などの手続きを進める
- デマンド型交通システムの導入に向け検討を行う
- いじめの防止等のための基本的な方針を査定し、いじめ防止のための事業を展開する
- 学力向上に向けた先進的な研究や理科備品の整備を実施
- 老朽化した学校施設の改修を積極的に行う（上高野小学校、幸手中学校など）
- 権現堂公園幸手桜堤と旧日光街道幸手宿を結ぶ市内回遊型観光を推進するため、新たな観光マップを作成他、

3年目の3・11に思う

26年3月11日、私は福島県いわき市小名浜の港にいました。3年前この地域は海にのめ込まれていました。



今、この港は春の日差しの中、何もなかったかのように波はとても穏やかです。



そして、午後2時46分、その場所です。黙とうを捧げさせました。近くの魚市場では、せめてお金を落とそうと買い物をしました。現実には、小名浜で獲れた魚は売れない…ということでした。安全という数値であっても、風評被害で、小名浜産の魚は買ってもらえないと嘆いていました。

だから、その魚市場で売っているものは、他の漁港で獲れたものをまわしてもらって売っているそうです。

私のまわりにも、その東日本大震災により、福島から避難して幸手で暮らしている方々がいらっしやいます。福島に行けば、すべてが揃って何ひとつ困らないのに帰れない…

そんな声に胸を詰まらせ、私は言葉を失います。避難解除になって帰れといわれても、まわりが帰らない

い限り、お店もなければ食べるものもない、どうやって生きて行けというのか…

私は、この福島の方々の思いに寄り添うことしかできない無力さを感じます。

しかし、縁あって知り合った大切な方々に、少しでも「幸手」に住んで楽しい思い出をつくるのが、私の役目と 생각합니다。

今年も綺麗な権現堂の桜に心安らぐひとときを、一緒に過ごしたいと思います。

もう3年…まだ3年…

阪神・淡路大震災でって救出された人々のおける自助・共助

東方に	34.9%
東側に	31.9%
西側に	28.1%
西方に	2.6%

防災の基本は、
自分の命は自分で守る。
自分の家族は自分たちで守る。
自分の地域はみんなで守る。